

## 宮司浜ノ久保第3地点発掘調査

所在地 : 福岡県福津市宮司五丁目 1038 他 地内  
調査要因 : 宅地造成工事  
調査期間 : 令和5年11月1日～令和5年12月12日  
調査面積 : 202 m<sup>2</sup>  
調査担当者 : 文化財課文化財係 高木 慎太郎

## ■地理的・歴史的環境

調査地は宮地岳西麓から海岸に向かって延びる丘陵先端部付近に所在する。古くから継続的に人びとが生活していたと考えられ、過去の調査では6世紀末～7世紀初頭に位置づけられる竪穴建物が見つかっている。当時の入海南岸地域の様相を考えるうえで重要な遺跡である。

## ■検出遺構・遺物

## 【遺構】

土坑2基、小穴複数

## 【遺物】

陶器すり鉢、陶磁器片、土師質土器

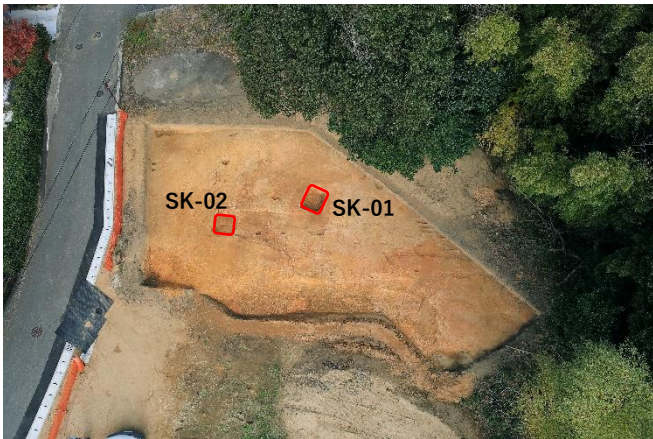
## ■所見

遺構は調査区中央付近に密集しており、その周辺には後世の耕作による畝状の掘り込みが多くある。検出した遺構は土坑2基と複数の小穴である。18世紀～19世紀ごろと考えられるすり鉢や、陶磁器等が出土した土坑(SK-01)は、長約1.5m、幅約1.2m、深さは約0.6mである。暗褐色土と地盤面である花崗岩バイラン土が交互に堆積しており、少なくとも2度利用されたことがわかる。自然堆積の痕跡がない点や最後に花崗岩バイラン土で土坑を埋めていることを考慮すると、陶磁器類の廃棄土坑と考えられる。明確な遺物を伴う遺構はこの土坑のみであった。

今回の調査で明確な時期が分かる遺構は18世紀～19世紀ごろの土坑1基のみであったが、当該地が近世まで継続的に利用されていたと推測できる成果を得ることができた。調査地は、後世に大きく地形が改変されており、多くの遺構がその影響で削平されたと考える。わずかに残っていた遺物包含層からは、土師質の土器細片も出土していたことから、これまでの調査で見つかっていた、古墳時代に属する遺構やそれ以前の遺構があった可能性を指摘できる。周辺遺跡の成果も踏まえると、古墳時代から近世までという長期間にわたって、人々が断続的に生活していたと推測される。



宮司浜ノ久保第3地点位置図 (S=1/2,500)



調査区全景 (南から)



陶磁器類廃棄土坑 SK-01 遺物出土状況 (南から)



陶磁器類廃棄土坑 SK-01 完掘状況 (南から)